

まんさく

第309号

社会福祉法人 光寿会
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
題字 元理事長 太田 祖 電



雪あかり鑑賞ドライブに行ってきました♪

～令和7年2月8日～

今年も4台に分かれて8名のお年寄りたちと一緒に雪あかり鑑賞ドライブへ…♪久しぶりの名物街道にも出向き、1時間コースにご満悦の皆様でした♡【上の写真：光寿苑の雪あかり(高橋祐一様作)】

309号『まんさく』もくじ

☆2頁★

- *今生より往く
- *もちつきの会

☆3頁★

- *災害を捉える

☆4頁★

- *地域密着型事業紹介
- *寄贈・面会・外泊等

☆5頁★

- *「共生の場」ようこそ♪
- *豆まきの会 *謝湯雪中神輿来苑

☆6頁★

- *「光寿会の日々」(4コマ漫画)
- *「自然法爾」(お寺さんのお話) *「おわりに」

光寿会では、事務系・相談員系・介護系・調理系等の職員を募集中です♪



『今生より往く』



明るい性格で周囲を笑顔にさせた母

和泉 信子さん【89歳】

好きなお刺身やアイス等、美味(もう)に食べて下り、介助している自分まで嬉しかった。目が不自由な分、説明等で他の方よりも話す事が多く、冗談等かとして楽しかった。看取り期に入ってから自宅でご家族と過ごし喜ばれていて、よかったですと思った。自分にとって尊敬できる人の担当かできてよかったと思う。

《担当：高橋龍正、田村初恵》



真に優しい空気で場を和ませた母

菅原千ヤコさん【96歳】

物静かな語り口調と、ゆったりとした動き、常に身なりを整える仕事は、日々変わることなく、穏やかに過ごされていました。自分なりの時間の使い方が上手で、何ごとにも一生懸命に向き合う姿勢は、私たちにとてもお手本のような方でした。最後の時、笑っている娘さんに看取られて、感激しました。

《担当：米澤真由美、照井 緑》

もちつき会

去る1月23日、もちつきの会が開かれました。職員のへっぴり腰(!?)の餅つきに、大盛り上がりのお年寄りたちの声援が飛び交う楽しき会でした♪



想...

災害を捉える 石川県七尾市から発信②

『能登から被災地だより②』竹原了珠 氏



今回も引き続き、能登半島地震を経験して今も向き合い続ける竹原さんに筆をとって頂きます。『記念日反応』というキーワードと共に考えを深めて参ります。

今年の能登の冬は、青空が広がる明るい日が続いている。能登の冬の青空を見て、怖くなるのは私だけではないと思う。地震があった日も青空だったから。これも一種の「記念日反応」かもしれない。「記念日反応」とは、大切な事や人を失った日が近づくと朝起きれなくなったり、体の弱い所が悪くなったりして、心や体に変調をきたす現象の事を言う。

知り合いのグリーフケア（喪失体験をした方のケア）を実践している人から、「記念日反応には、仏様に手を合やす事がいいよ」と聞いていたので、昨年の12月から僧侶の皆さんに「追悼法要しませんか？お手伝いしますよ」とお勧めしている。その結果、昨年12月から各地域で地域住民とお寺さんと一緒に手作り感あふれる法要が勤まっていた。12月、輪島市の三井という地域の追悼法要では、手を合やすだけでなく、炊出しやカフェ、沢山のお菓子や生活用品、東本願寺からはお念珠等も配布され、涙や笑顔、厳肅さと優しさやごちゃ混ぜになり、とても素敵

交流の場になっていた。今、仮設住宅に住んでいるのは7千戸弱と言われる。仮設住宅を利用できるのは2、3年という期限があり、その後どうするか？という意思確認が現在行われている。まだ建てられてもいない復興住宅に住むかどうか。元の更地に家を建てようにもお金がない。細い道の傍だと消防法で建てられない。壊れた家を修理するか解体するか、その期限が迫っている。次から次へと変化と対応を求められ、でも変われない現実があり、どうしたらいいのかと、奥能登の皆さんは悩み苦しんでいる。

先日、現地で炊き出しを続けている友人から聞いたのが、炊き出しの同じ日に何度も何度も同じ人が食事を受け取りに来る。こういう事が問題になっていると。その内の一人の仮設住宅へ行ってみると、炊き出しで頂いてきた沢山の食事が、手をつけずにテーブルの上にもそのまま並んでいた。その食事もしない物を何度も取りに来るなんて、何と強欲な！と思われらるだろう。私は友人に、

「それほど不安なのではないか」と感想を伝えた。大切な物をすべて失い、空っぽになった人生。仮設住宅には、知らない人から頂いたものがかりで、自分が親しんできたものは何も無い。長い間、食べ物がない状態が続いた飢餓の感覚は、近い記憶に残っているはずである。そんな人が、温かい食事を何皿並べても、きつと満足する事はなく、また炊き出しの列に並ぶ事は、たぶんそんなに不思議な事ではないと私は思う。高齢の方が、リ勿体ない」と不用なもの（私たちがからすれば）をため込めのは、モノが無い時代に生きてきた不安な感覚が残っているからだろう。それと近いのかも知れない。

こんな風に、沢山の人が悲しんだり悩んだりしているのに、空は青い。昨日、同じ様に青空が広がっていた。道がバリバリに割れたり山が崩れていても、余震のアラートが鳴り響いていても、消防車や警察車両、自衛隊のおがただしい数の車両が押し寄せ、空は澄んだ青色だった。今冬も不思議と青空は続き、その空の下で沢山の人が悩み続けている。

（続）

今月の登録者の方々
16名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

新春の風物詩を堪能して下さいます…「ひなたぼっこの日常」



【左】福笑いに挑戦中(笑)
【右】お茶会「新年書初め」

第5回『運営推進会議』(1月22日)

△外部委員10名、職員2名▽

【委1】埼玉の方からご寄贈が数回ありますが、これは？、

【職1】湖畔の宿入居者Hさんのご家族で、定期受診の対応と自宅外泊のために月数回来て下さっています。

△外部評価について△

【委2】「利用者以外のご近所の方心配な方には、事業所は関わっていませんが」とについては実際ありましたか？

【委3】利用にながった人が実際にいるので「〇」と思う。

【委4】当会議でも話題に上がった人等、検討された事だと。

【委5】「事業所の防災・災害対策」とについて。以前から話題に上がっているが、告知端末の活用はどうか、行政連絡員だけでなく、色々な人が使えれば災害対策になると思うのですが…。

【委6】誰もが使えらるようになっていきます。

【委7】それは良いですね。協議会長や色々な方に、手順書をお渡ししたいと思います。

おかげさまでした

寄贈

- ★ おおしま商店様 [湯本]
- ☆ 梨子下 深雪様 [上野々]
- ☆ 高橋 美智子様 [上野々]
- ☆ 高橋 ちづ子様 [下前]
- ☆ 高橋 郁子様 [下前]
- ☆ 阿部 貞子様 [湯本]
- ☆ 高橋 康文様 [新町]
- ☆ 佐々木 正様 [北上市]
- ☆ 石川 顕様 [盛岡市]
- ☆ 下平 真理子様 [紫波町]
- ☆ 高橋 智也様 [埼玉県]

来所

- 【1月19日 新春民謡ショー】
- ☆ 西和賀民謡同好会 … 4名
- 【1月22日 第5回 運営推進会議】
- ☆ 運営推進会議外部委員 … 10名

面会・外泊

1月1日～31日

- 【対面面会】
- ★ 延べ16名 (対象入居者12名)
- ☆ 延べ16名 (対象入居者5名)
- 【自宅外泊】
- ☆ 延べ2名



光寿会へのご支援
★光寿苑 ☆ひなたぼっこ、湖畔の宿

『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しいお仲間のご紹介となります】



藤原 アキさん
*西和賀町



鈴木カツエさん
*西和賀町

節分・豆まきの会 2月2日

職員の迫真の鬼役に対して、笑いながら玉(豆の代わり)を投げつけて楽しむお年寄りたちでした♪



謝湯雪中神輿来苑 2月9日

今年も100名を超える神輿の方々が窓越しにてワッショイワッショイ♪お年寄りたちも興奮です!





イラスト：1000

季節の変わり目のこの行事、今年は2月2日に行われた。鬼役の職員も真面目に演じる。お年寄りたちも真剣になってお年玉(豆の代わり)を投げつける。苑内からは、笑い声や歓声が響いてくる。その真剣勝負の場が生んだMばあさんの食欲にはこの

「いやに澄ましているな」と彼は云った。

漱石がラス戸の中

第108回 丸田善明

自然法爾「じねんほうに」

彼とは盛岡の人、太田達人。漱石の学生時代の友人。漱石は、悠揚進らぬ大人の風格を持つこの友人を尊敬していた。達人は東京帝大を卒業すると、北の植民地・サハリンの中学の校長になって赴任していた。

漱石の晩年、達人が久々に東京の漱石の寓居を訪ねる。旧友の来訪を聞いた漱石は、座敷で待っていた。

廊下佐いに室の入口まで来た彼は、座布団の上にきちんと坐っている私の姿を見るや否や、いやに澄ましているなと云った。その時、向こうの言葉が終わるか終わらない

「どうして悪口を自分で肯定するようになり、こんなに自然に、するすると私の喉から滑り出したのだろう。」

漱石は、このエッセイを次のように結ぶ。「私はその時、透明な好い心地がした。」

筆者は思う。心許した人の言葉は、悪口の様であったも棘はない。その逆であれば、巧言も人を殺す。達人と漱石の久々の対面の光景を、私は時々思い出してほっこりとする。

おわりに

もう10年以上前の話。死生観等の研修会で私が時折お聴きする「最期、食べられるとしたら？ 飲めるとしたら？」の中で、Mばあちゃんとのドーナツと答えた30代前後の方の言葉をふと思い出した。そのおばあちゃんはお逝去されたのだが、その方は続けた。

Mばあちゃんとの頃、学校から帰ってくる、おばあちゃん手作りのドーナツを食べるのが楽しみ。本音美味しくて。懐かしくて。おばあちゃんのドーナツを食べたくて私も作ってみるけれど、あの味にならなくて。いつか、おばあちゃんとのドーナツに会いたいです。大切な人は、居なくなっても私たちの今を支えてくれるのだらう。

※残された私たちが忘れない事です。